

ミック  
MIC-108

NET:10kg ポリ袋詰

**MIC-108は省力的に理想的な土づくりを行うための資材です。**

使用  
目的

優良堆肥の省力生産資材

作物残カンの早期分解（未熟有機物を早期分解し有機物障害を抑える）

特徴

- 1.セルロース・タンパク・リグニンなどを分解する活性力の高い微生物をバランス良く、含んでいます。
- 2.好嫌気性微生物のため堆肥作りにおいて省力化が可能です。
- 3.作物の残カンを早期に分解し腐植化を進めます。

### MIC-108の特長と有利性

- 堆肥素材や残根、残さのセルロース、タンパク、リグニン、ペクチンなどを分解する微生物を**バランスよく、高濃度**に含んでいるので、良質の有効腐植を生成します。
- 嫌気性菌が主体で**酸素（空気）が少ない**ところでも活発に働くので、堆肥の切返しが不要で大幅に省力化でき、作物残カンを**耕土の深層（根圏）**でよく腐植化します。
- 腐植は土を団粒化し、保肥・保水・通気性を向上し、塩類濃度障害を解消するなど、**根圏環境を改善**し地力を高めます。
- バランスのよい微生物群は、作物根圏に作用し、ビタミン・オーキシン・ホルモンなどの生長因子や微量元素などと共にアミノ酸、核酸を直接補給するので、作物は健全に育ち、異常気象や病虫害に負けず、**良品を安定的に多収**することができます。



# MIC-108の使い方

## 1. MIC-108の増量

配送運賃軽減の為10kg詰に濃縮しております。お手持ちの米ぬか、フスマなどで3～4倍に増量していただきますと均一に混合、散布がし易くなり、微生物活性も向上し効果的です。

## 2. 堆肥の作り方

- (1) 堆肥原料1～2トに対してMIC-108 1袋(10kg)を使います。
- (2) 堆積方法は、原材料にMIC-108を混合して堆積する混合堆積法と、原材料の積層の間にMIC-108をサンドイッチ状にはさんで堆積する交互堆積法の2通りがあります。いずれの場合もMIC-108の原材料との接触密度が高く、一山の量が多いほど発酵が良好です。
- (3) 原材料の水分が55～60%、炭素率(C/N比)が20～35で発酵をスタートさせるのが理想ですので、下記を標準として水分調節と窒素源の添加を行ってください。
  - 1) 畜ふん類の場合  
水分が多く、炭素率が低いので窒素源は添加せず、切断した稲ワラ、麦ワラ、野菜の残カンなどを重量で2～3倍加えてください。
  - 2) 稲、麦わらの場合  
水分が少なく炭素率が高いので、まず水分を充分(手で強く握って水分がにじみ出る程度)に含ませてください。窒素源としては原材料1ト当たり尿素で3～5kg(硫安で6～10kg)を添加してください。
  - 3) モミガラの場合  
炭素率が高く、水分をはじく性質を持っていますので、畜フンと交互堆積し保水して下さい。できればモミガラは砕いてください。モミガラは含水さえ充分であれば順調に発酵します。
- (4) 堆積後は古ビニールなどで被覆し、発熱2週間後に水分と温度を均一にするための上下、(内外を交換する切返しを一回行えば最善です。切返しが不可能な場合は、堆積山内部の完熟部分を使用し、条件の悪い堆積山の上部・外側部の未完熟部分は次回の堆肥原材料に廻すのがよいでしょう。

## 3. 稲ワラ、麦ワラのすき込み方

- (1) ワラは出来るだけ短くして均一に圃場に敷きつめて下さい。
- (2) 10a当たりMIC-108を1～2袋(10～20kg)を使います。
- (3) 米ヌカなどで増量したMIC-108に窒素飢餓防止のための窒素源を併せて散布してください。

## 4. 残カンのすき込み方

有機物の上に散布し耕土と混合することにより、有機物障害を解消することが出来ます。10a当たりMIC-108を1～2袋(10～20kg)を使います。茶樹の場合、一番茶の収穫後畝間施用し土と軽く混和して下さい。

(ご注意) MIC-108は生きた微生物資材ですので殺菌力のある石灰窒素との併用はさけて下さい。

総発売元



ニチモウ株式会社

〒140-0002

東京都品川区東品川2丁目2番20号(天王洲郵船ビル)

TEL:03-3458-4369 FAX:03-3458-4329

http://www.nichimo.co.jp/ E-mail:cofuna@nichimo.co.jp